

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

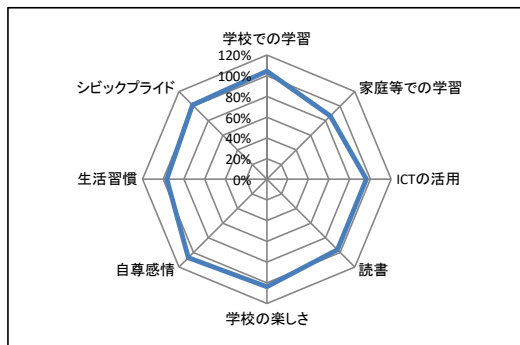
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識・技能は全国正答率を上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られる。思考・判断・表現は全国正答率をやや下回っているものの「話すこと・聞くこと」については上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章と図表などを結び付けするなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	図形領域や測定領域、データの活用領域の平均正答率は全国平均を上回っている。数と計算領域及び変化と関係領域は全国平均を下回っている。また、記述式問題の平均正答率は全国平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域の平均正答率は全国平均を上回っている。「エネルギー」や「粒子」「地球」を柱とする領域は全国平均を下回っている。記述式問題の無回答率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。	
・ 主体的・対話的で深い学びやICTを積極的に活用したこと学びを取り入れることにより、児童が主体的に学習に取り組んだり、自分の考えを表現したりすることができていると考える。さらに、児童が学習内容をより理解することができるために、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が学習の楽しさを感じられるようにすることが必要である。	
・ 「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との問いに対して、1時間以上と回答した割合が低かった。今後は、復習や家庭学習の重要性を伝えることや個に応じた課題などをより一層配慮していく。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語科では、話の詳細をよく読み取ることができるように国語の授業やドリル、プリント等で補充をしていく。
- 算数科では、「数と計算」「測定」領域を中心に復習を行っていく。
- 理科では、「粒子・地球」「エネルギー」領域を中心に復習を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 今後も引き続き、栄養教諭、養護教諭を中心に、早寝・早起き・朝ごはんの重要性などを児童に伝えていく。
- 保護者の方にも保健だよりや食育だよりで理解と協力を求めていくようにする。
- 中学校区で連携し、読書活動や自主学習を重点的に取り組むように今後していく。